

## 創立60周年記念式典・記念講演 お礼とご報告

去る令和3年11月6日（土）、本校第一体育館において、創立60周年記念事業実行委員会の皆様の列席を賜り、「島根県立松江南高等学校創立60周年記念式典・記念講演」を挙げていただきました。



1・2年生が式典に参加



3年生は教室で視聴

この佳き日に合わせて、本校正門には美術部が制作した記念壁画が飾られ、会場には書道部が制作した作品が掲げられました。また、生徒会執行部が制作したオブジェが壇上を飾りました。式典参加者には、記念品として新聞部が制作した記念新聞が配られ、南高が歩んできた60年という歳月に思いをはせました。



正門に飾られた記念壁画



記念壁画の一枚(南の守り神「朱雀」)



書道部作品



生徒会オブジェ  
(廃品を利用して制作)

開式の前に、来年度の全国総文祭への出場が決定している箏曲部の演奏が披露され、厳かな雰囲気の中で式典を迎えました。



箏曲部による演奏

放送部による式進行のもと、合唱部が国歌を斉唱しました。その後に、二代校長 飯塚一雄先生、矢の原教育振興会 初代理事長 浅野俊雄様をはじめ、この10年に亡くなられた本校ゆかりの方々への黙祷を捧げました。



放送部による進行



合唱部による国歌斉唱

はじめに、創立60周年記念事業実行委員会 門脇浩泰会長から挨拶がありました。門脇会長は、「学区制廃止などの教育環境の変化に対応し、選ばれる学校へと進化するために記念事業を進めてきた。メールマガジン配信などの矢の原会の活動に対して、関係の皆様へのお礼を申し上げるとともに、今後も益々卒業生の輪をひろげていきたい。」と述べました。



門脇会長の挨拶

続いて、二十四代校長 倉崎千草が式辞を述べました。倉崎校長は、「南高の歴史は、『われらの前に道はない』という状況から、多くの皆様の熱い思いで積み重ねてきたものであ

る。時代が変わっても南高がかけがえのない出会いをもたらしてくれる場所であることは変わらない。生徒の皆さんには仲間と共に夢を追い、三とせの青春を謳歌してほしい。」と述べました。



倉崎校長の式辞

その後、出席者の紹介を経て、向原悠太 生徒会長が生徒を代表して挨拶しました。向原会長は、「60周年という節目の年を迎えた喜びと責任を胸に、社会に貢献する志を持って、素晴らしい仲間と共に切磋琢磨していきたい。」との決意を示しました。



向原会長の挨拶

最後に、吹奏楽部が校歌を高らかに演奏して記念式典は幕を閉じました。従来の記念行事と比べると簡素ながらも、随所に生徒の活躍が光る式典となりました。



吹奏楽部による校歌演奏

式典終了後、休憩に入り、その時間を利用して放送部・演劇部の制作による「メイキングVTR」が放映されました。これは、美術部・書道部・新聞部・生徒会の作品制作の様子を追いかけたドキュメンタリー風の映像作品でした。



メイキングVTRの一場面  
(新聞部の制作風景)

続いて、記念講演が行われました。講師は筑波大学 山中敏正 教授で理数科5期の卒業生です。『見えないものを見るために一創立 100 周年を目指して』と題した講演で、山中先生は、「知識は見えないものを見るために必要であり、わからないことにワクワクすることが意欲や生きる力につながってくる」と高校時代のエピソードを交えながら生徒に語りかけられました。「まずは、手当たり次第、色々なことをやってみること」、「周囲とのズレがあったとしても違いを考えることで次が見えてくる」。そして、「未知の世界を想像して新たな問題を発見することが重要であり、100 周年、そして、その先を目指すことにつながる」と話されました。母校の後輩に熱く語ってくださった山中先生のお話は、多様性の社会を生きていく生徒にとって多くの示唆に富んでいたように思います。



山中先生の講演

記念講演を受けて、探究科学科1期生の深田佳菜乃さんが謝辞を述べ、山中先生も所属された美術部の後輩から、記念壁画の原画が贈られました。



深田さんによる謝辞



美術部から作品贈呈

以上をもって、「島根県立松江南高等学校創立60周年記念式典・記念講演」は終了しました。記念式典などの開催にあたり、式典にご出席いただいた皆様、様々にご尽力くださった皆様に心からお礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、当初の予定より規模を縮小しての開催でしたが、厳粛な中にも心温まる一日となりましたことを関係者一同大変嬉しく思っています。これもひとえに矢の原をはじめ関係者の方々、地域の皆様の、南高に対する温かいご支援の賜と感謝申し上げます。

60年という歳月の上に立って、地域の期待に応え、生徒一人一人の力を大きく伸ばす学校であり続けるために、一層精進してまいります。

南高の益々の発展のため、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。